

11 明治政府お雇い外国人医師スクリバ博士の人物像と人柄

—その生涯と家系—

高橋日出雄¹⁾、高橋 薫²⁾

¹⁾ 医療法人社団成風会 高橋クリニック外科 東京都足立区

²⁾ 医療法人社団成風会 タカハシクリニック 千葉県松戸市

夏、地元で名医との評判の高い耳鼻科の先生から思いがけず、私の母の叔父の話が出た。母の叔父は明治生まれの耳鼻咽喉科医であった。永く東京都千代田区永田町の診療所、神奈川県湯河原町で病院を経営し、港区霞町(現在の六本木)で開業していた。また、母の叔父の妻はスクリバトモエさんであった事も分かった。近代日本の西洋医学の発展に貢献したドイツ人内科医師のエルウィン ベルツ博士と共に、明治初期に来日したユリウス スクリバ博士も長く東京帝国大学医学部で、教師として学生に教鞭を執った。一方、母の叔父、黒須巳之吉は明治18年生まれ、千葉県出身で、東京帝国大学を卒業後、耳鼻咽喉科医師として、東京慈恵医科大学初代学長の金杉英五郎先生の駿河台の金杉病院で奉職した。しかし、若くして先妻を失い、後妻として迎えた再婚相手が“ともえ”さんであった。トモエさんは次男エミール スクリバの妻であったが、エミールが43歳の若さで、子供一人を残して病死したため未亡人となっていた。このことは昭和11年12月に開催された“日本医史学会スクリバ先生追憶の夕”で講演された先生方の中で、近藤次繁先生、関場不二彦先生、西山信光先生がスクリバの医学的業績とともに、スクリバの家族についても述べておられる。その中で黒須君という名前が登場するのですが、これが将にスクリバトモエさんと再婚した母の叔父黒須巳之吉先生であります。詳しくは翌年発行の中外醫事新報第1240号に載っている。エミール スクリバはユリウス カール スクリバの次男で商社マンであった。ユリウス カール スクリバはお雇い外国人ドイツ人外科医であり、同僚のドイツ人内科医師エルウィン ベルツと共にほぼ同時期、東京帝国大学医学部で活躍された。エルウィン ベルツは日記、伝記、内科教科書、温泉鉱泉論など多くの書物が残されている。一方、ユリウス スクリバに関する資料は乏しく、いわゆるスクリバ門下生と称される外科医局員、すなわち日本外科学会創生期の諸先生の追想録、日本醫事新報、平成20年発行の“東京大学病院だより”などの文献や資料を参考とする事となった。収集した資料を再度読み返して、スクリバについて研究したが、スクリバの医学的業績は文献等で公にされている。今回、医学的側面とは別に観察し得たスクリバの人物像と人柄、本人の興味の範囲での動植物、胡蝶など趣味 趣向について、更に日本での家系についても私見を交えて報告する。なを、今回の調査資料提供にご協力をいただいた黒須 譲先生に御礼申し上げます。また、東京大学医学部図書館、日本医科大学図書館、国立国会図書館より関係資料の供覧に感謝申し上げます。